

スケッチブック

高知 三年 ゆり

日曜日の夕方、家の前でお父さんの車に乗りました。後ろのせきには、私の赤いスケッチブックとお父さんのベージュのスケッチブックと絵の具とふでがおいてありました。私はお父さんと前の日曜日に絵をかきに行くやくそくをしていました。お父さんが、

「今日はおそいき近くに行こう。」
と、車を運転しながら言いました。

丸池公園の入り口の近くに車を止めました。スケッチブックを持ったお父さんと手をつないで公園の中へ入っていききました。私はベンチの前に向かいピンクのきれいな花がさいているのを見つけました。私は、

「あの花がこう。」

と言って、花の前のベンチにすわりました。お父さんも私の横にすわりました。

お父さんが、えんぴつとスケッチブックをわたしてくれました。

私は、今、お母さんと二人のお兄ちゃんとくらしています。お父さんと比べてくらしています。お父さんは絵をかくのがすきで、私といっしょに絵をかくためにこのスケッチブックをプレゼントしてくれました。

私は、スケッチブックの表紙をめくりました。表紙のうらに、お父さんが自分の顔を小さい紙にかいてセロテープではっているのが見えました。お父さんの顔のうえにえんぴつで、

「こまったときは、いつでもお父さんがついちゆうきね。なんでもいいや。」
と、お父さんが書いてくれました。私はお父さんに、

「ありがとう。」
とにこにこして言いました。私は、お父さんすごくやさしいなあ、と思いました。

私はスケッチブックとえんぴつを持って花の近くへ行っすわりました。私は、絵を少しかいてお父さんの絵を見に行きました。お父さんは、花と

すわって絵をかいている私をかいていました。私は、すぐもどって、お父さんにまけないように早く、うまくかこうと思いつながら、かきました。

私は、何回もお父さんを見に行きました。でも、お父さんの方が早くてうまくかいていました。だから、私もいそいでかきました。夕日が西の空にしゅ色に見えて、きれいでした。私は、絵の中に夕日もかきました。

お父さんが、

「おそくなつたき、また今度かこう。」

と言いました。私は、

「うん。」

と言いました。私は、お父さんに絵を見せながら、

「これっぱあしかかけんかった。」

と言いました。お父さんが、

「じょうずにかけちゅうやんか。」

と言ってくれました。

私は、スケッチブックを持って、お父さんと手をつないで車まで歩きました。



(指導 山本真紀子)